

● 企画にあたって

都市部で総合診療医のクリニックを開業して、8年が経過しました。周囲には小児科のクリニックが数多くあり、当初はこどもの患者さんが来るのか不安でしたが、蓋を開けてみると、外来患者さんの半分はお子さんでした。それだけ、家族みんなの主治医である総合診療医・家庭医のニーズは高いということを感じました。

十分な研修を受けて、小児科診療に自信がもてたとしても、診療ガイドラインや教科書だけの情報では保護者の信頼は得られません。その地域の事情に合った診療や紹介のタイミングなどがあるのです。例えば、本文でも述べられているように、熱性けいれんに対するジアゼパム坐薬の予防的使用についても、救急外来へのアクセスが良好な都市部と地方では、自ずと適応範囲が異なることでしょう。そのような事情を踏まえた、その地域の「お作法」というのもガイドラインと同様に重要です。

本書で総合診療医の私が伝えたかったこと、それは「専門医との顔の見える協力が、総合診療医の力を高める」ということです。種明かしをすると、本書のディスカッションには私が宮本先生に実際の診療で相談している内容が少なからず盛り込まれています。地域で頼れる専門医との協力で私の小児科診療も日々少しずつレベルアップしています。皆さんの周りにも「教えて〇〇先生！」がいないはず。ぜひ、話しかけて、相談してみてください。

本書によって、各地域で総合診療医と小児科医が協力し、地域の小児科診療全体のレベルアップのきっかけになれば幸いです。

2018年5月

多摩ファミリークリニック

大橋博樹